



裁判員制度パネルディスカッション ～裁判員制度10年の歩み～

大阪地方裁判所では、5月18日(土)、裁判員制度10周年特別企画として、裁判員制度導入による刑事裁判の変化や裁判員裁判に参加することの意義等をテーマに、裁判員等経験者、報道関係者、研究者及び法曹三者をパネリストに迎えてパネルディスカッションが行われました。

当日は、高校生以上の学生の方々にご参加いただき、裁判員制度の解説や法廷見学を行った後、上記のパネリストによる意見交換が行われました。

ここでは、当日の様子やご参加いただいた方の感想をご紹介します。

第1部：裁判員制度解説、法廷見学

実際の役割に沿って審理を体験できて、分かりやすかった。

第1部では、参加者の皆さまに模擬証人尋問を体験していただき、裁判官から裁判員制度についての解説がありました。



第2部：パネルディスカッション

意見交換

第2部では、裁判員裁判で刑事裁判はどう変わったか、裁判員裁判に参加することの意義について、裁判員等経験者、報道関係者、研究者及び法曹三者のそれぞれの立場から意見交換が行われました。

※別途掲載の議事概要もご覧ください。



様々な立場からの生の声が聞けてよかった。



裁判員等経験者の方々からは、実際に裁判に参加したご経験を踏まえ、裁判は分かりやすかったか、負担はなかったかなど、貴重なご意見をたくさん頂戴しました。

報道関係者、研究者、法曹三者からは、裁判員裁判導入による刑事裁判の変化、裁判員が参加しやすい裁判とするための工夫等について、様々なご意見を頂戴しました。



質疑応答

参加者の皆さまからは、パネリストに対する質疑応答の時間も設けられました。
※別途掲載の議事概要もご覧ください。



裁判員として量刑判断を経験されて、どう感じましたか？

裁判員を経験されて、裁判報道等への関心は高まりましたか？

国民の司法に対する関心を高めるにはどのような取組が必要でしょうか？

裁判員裁判以外でも、審理を分かりやすくする工夫をされているのですか？



裁判員の負担軽減のための取組がなされていることが理解でき、前よりも裁判員制度に対して良いイメージを持つことができました。

法曹三者が様々な工夫をしていることが分かりました。裁判員等経験者の生の声を聞き、ハードルの高い制度ではないと思うようになりました。



裁判員制度の導入によって、分かりやすい裁判になったこと、刑事訴訟の原理原則に近づくことができたといった実態が分かりました。将来、自分が選任された際には進んで参加したいです。

裁判員制度は、5月21日で制度施行10年を迎えました。
今回のパネルディスカッションを通じて、裁判員制度に対する抵抗感や不安感が少しでも解消され、関心や参加意欲を高めていただけたらと思います。
今後も、参加しやすい裁判員制度を目指して、様々な広報行事を実施していきますので、皆さまのご参加をお待ちしております。

